



▲イヌザクラの花

ありがとうございました

黄色いワッペン (株)みずほフィナンシャルグループ、(株)損害保険ジャパン日本興亜、明治安田生命保険相互会社、(株)第一生命保険から黄色いワッペンが新入学児童数分寄贈されました。新入学児童の交通安全を願って昭和40年にスタートし、今年で56年目を迎える事業です。ワッペ

ンには、3年3月まで有効の交通事故傷害保険が付けられています ▶交通安全啓発下敷き (公財)千葉県交通安全協会連合会 ▶ランドセルカバー 八千代交通安全協会 ▶防犯笛 (株)日本マクドナルド ▶サイクルリフレクター コスモス交通安全協力会、(株)千葉興業銀行

おめでとうございます(敬称略)

■春の褒章

【藍綬褒章】 ▶更生保護功績 伊藤道子(八千代台東) ▶調停委員功績 藤川明典(上高野)

■春の叙勲

【旭日小綬章】 ▶地方自治功勞 松井秀雄(高津) 【瑞宝重光章】 ▶内閣府行政事務功勞 武田宗高(勝田台北) 【瑞宝小綬章】 ▶防衛功勞 塚田義和(大和田新田)、寺崎寛(上高野) ▶国土交通行政事務功勞 前橋久志(下市場) 【瑞宝双光章】 ▶教育功勞 佐々木民義(勝田台) 【瑞宝単光章】 ▶社会福祉功勞 富樫千賀子(大和田新田) ▶消防功勞 安原健吉(吉橋) ■危険業務従事者叙勲 【瑞宝双光章】 ▶消防功勞 大堀祐基(八千代台西)

市指定文化財イヌザクラ 4月下旬に開花

八千代広域公園駐車場の前の鳥居の奥の丘の上。村上の浅間神社(村上南2-25-1)の境内にある巨木、イヌザクラが開花しました。

イヌザクラは市指定文化財の中で、唯一の天然記念物です。名前の由来は、一説には桜の仲間ですが、桜に見えないことから「イヌ」は「似て非なるもの」の意味で、「非」から「イヌ」に変化したものといわれています。樹皮が白いので、シロザクラとも呼ばれます。

樹齢推定200年、幹周り2.95m、樹高14m。樹高が平均10m前後の

本種としては大きな個体です。4月下旬から5月上旬にかけて白い花が咲きます。夏の終わりの8月頃には、サクランボに似た実を結びます。



▲4月23日撮影。駐車場はありませんので、イヌザクラの見学は公共交通機関などをご利用ください

中国の企業4社が合同で不織布マスクを寄贈 1万1,000枚「高齢者福祉施設に役立てて」

「高齢者福祉に役立ててください」と日本天恩株式会社、中国山東千裕家纺株式会社、中国山東青島通産橡胶科技株式会社、中国山東君君繊維科技株式会社の4社が不織布マスク1万1,000枚を寄贈。4月3日、市在住の李娟さんを通じて長寿支援課に受け渡されました。

李さんは、語学学校を営むため、今年1月に来日。新型コロナウイルスの影響でマスクが買えず、母国の友人に相談したところ「日本はまだマスク不足になっているとは知らなかった。この機会に、大変なときに支援してくれたお返しをしたい」と声かけが広がりました。マスクは4社のうち1社が製造。李さんが営む法人を含



▲メッセージボードには「頑張れ日本」と書いてあります

む4社合同での寄贈に至りました。やり取りの中で何度も「乗り越えましょう」と温かい言葉をかけてくれた李さん。寄贈されたマスクは、市内の高齢者福祉施設などに配布しました。

ボランティアグループフェルト 手作りマスク80枚を寄贈

ボランティアグループ「フェルト」から「必要な人に届けてほしい」と、市社会福祉協議会に手作りマスク80枚が寄贈されました。「フェルト」は、主にフェルト生地でおもちゃを制作し、すてっぷ21などの児童施設やさまざまな団体へ提供を行ったり、幼児サークルへの講習を開催している団体です。寄贈されたマスクは学童保育指導員などに届けられました。



▲2種類のデザイン。通常のものよりも厚手で、丈夫に作られています

八千代歌壇

佐波 洋子選

◆お詫びと訂正 広報やちよ5月1日号の8ページに掲載した「感染予防に役立ててください」小・中学校へ消毒液を寄附」の記事の中で氏名を誤って掲載しました。正しくは「上川 靖人取締役」です。深くお詫び申し上げます。

道すがら呼ばれる声に振り向けばまた空耳か風の過ぎ行く (大和田新田) 諏訪 俊一

野菜畑老には広き家裏を荒畑にさせぬと春種をかう (村 上) 網島みち子

緩行の電車に冬の陽差し込みて女子大生の小さき欠伸 (大和田 井上 正則)

高校に受かったと電話くれし孫声がわりして他人の如し (八千代台東) 伊藤 浩子

一谷重記の歌の哀しみをしじみ聴きぬ夜半目覚めて (萱 田 町) 三神 哲也

喜寿となる雛の顔にしみもなく母との約束雨に飾る (ゆりのき台) 池内きよ子

われの好きな木立ベゴニア届けられし十日後に友は逝きてしまへり (八千代台西) 藤野 宏子

福島の大きく甘いあんぽ柿干し柿にまさる工夫あるらし (八千代台北) 秋山富美子

葱青し畝のあなたに那須の嶺母の畑の往時を偲ぶ (大和田新田) 小針 光

選評 一首目、上の句の叙述に味わいがある。空耳は誰しも経験するが、「また」に悲壮感が漂う。「空耳」と言わずに心象風景として「誰も居ず風ばかり過ぐ」と納めてもよい。二首目、農業を営む作者の心意気を「荒畑にさせぬ」で出し、背筋の通った精神性を感じさせる。三首目、結句のリアルな現代性で佐太郎の類型を免れ風景が立ち上がる。「冬陽」として定型に。

やちよ川柳

八千代川柳連盟選

笑っても泣いても酒は裏切らぬ 村上団地 手塚 俊子
プロポーズ天秤に掛け今がある 勝田台 芹田 慶玉
子が待つ足音高い母の靴 村上 藤原 敏弘
割り箸の別れてからの助け合い 緑が丘 坂根 元幸
五つの輪マスク外してまた会おう 緑が丘 勝田 賢
もう言えぬ優しい四季のある日本 上高野 神津真智子
充電と言いつつ休む休む 勝田台 小林きらら
心配と煙草の量が比例する 勝田台 植田 絵理
そもそもと言いつつ始めたら要注意 大和田 関川由美胡
スニーカー行くぞと騒ぐ好奇心 大和田 塔ヶ崎咲智子
物忘れ手柄のごとく語る友 大和田新田 市東 國昭